

目標: 子供たちの生活の中で主に祈る回数が増えること
 聖句: 「まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをして下さらずに長い間そのままにしておかれることがあろうか。 ルカ福音書18:7」
 時間: 10分
 道具: ホワイトボード、ペン、祈禱カード
 対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5
 留意点: テーマはより祈れということである。これは当日以降の祈りへの継続的な促しにこそ重点を置くべきである。故に祈禱カードなどの運用が伴うことが望ましい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	<p>イエス様は、諦めずに祈り続けなさいと言われました。</p> <p>板書: 私たちはもっと祈るべきである。 皆はどんな時に祈っていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の時 ・寝る前 ・困ったとき ・祈っていない ・うれしい時 	<p>テーマの提示をする。</p> <p>この板書は最後まで掲げ続けるようにする。挙げられるだけ挙げさせたい。それは同時に、現在までの彼らの祈りに対する意識調査にもなるだろう。</p>
課題探究	6分	<p>そんなみんなに、イエス様は、もっと祈ってほしいと願って、こんなお話をしてくださいました。</p> <p>あるところに悪い裁判官がいました。</p> <p>一人のやもめが裁判官に訴えました。</p> <p>裁判官はあまりうるさいので、その訴えを聞きませんでした。</p> <p>「ましてや神様は」とイエス様は言われます。不正な裁判官でも訴え続ければ聞いてくれるのですから、神様が聞かないわけがありません。</p> <p>そこで皆さんに質問があります。</p> <p>いったい一日のうちで何回くらい祈っていますか。</p> <p>一日の内ではあなたはどのような時に祈れそうですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の時 ・寝る前 ・困ったとき ・朝 ・うれしい時 	<p>聖書の光の説教例などを参考にしてあらすじを掴んでおく。</p> <p>やもめとは身寄りのない女性で、社会的に軽んじられていた人だったことは触れる必要がある。</p> <p>うるささの描写を工夫し印象深く演出すると、訴えが聞かれたときの感動が大きくなると思う。</p> <p>続けて6-8節の朗読をしても良い。</p> <p>イエス様の発言なので、疑問を持たせず、そのまま信じさせたい。</p> <p>テーマを理解した子供は、沈黙すると思う。</p> <p>先ほどと同じ問いをして、次の促しへの跳躍台としたい。</p> <p>色々な答えを挙げさせたい。今まで祈っていなかった時間で、祈るようになったら良いのである。</p> <p>子供たちがお互いで知恵を出し合うようになるとうい。</p>
まとめ	2分	<p>祈りは聞かれるのですから、どんどん祈っていきましょう。</p> <p>暗誦聖句</p>		<p>182号テキスト全体のテーマからの反映として、この事柄を信じて取り組ませたい。</p>